

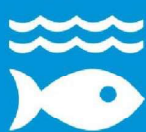


学ぼう!SDGs

～みんなで考える世界の目標～

第16回 目標14「海の豊かさを守ろう」

14 海の豊かさを守ろう



目標14「海の豊かさを守ろう」

～海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する～
人間が出す大量のゴミや排水は海を汚し、魚や鳥、海獣の命を奪う原因となっています。また、人口増加や世界的な魚食の普及により世界の漁業・養殖生産量は増加し続け、近年日本でもサンマやウナギ、秋サケなどが不漁になっています。現状のペースで魚を獲り続けていると、いずれ食べられなくなる日がくるかもしれません。漁協を先頭に、わたしたちも海洋資源を守っていきましょう！

わたしたちができる身近な取り組み

■エコラベルを探そう！

水産資源の持続可能性に配慮した管理がされていること、漁場の生態系に与える影響が最小限に抑えられていること、法令や規則などを順守して操業していること等の基準をクリアした会社や団体に付与される「エコラベル（認証マーク）」が表示されている水産物・水産製品があります。このマークが表示された水産物をサステナブルシーフードといいます。サステナブルシーフードを選ぶことで、未来でも魚を食べ続けていくことにつながります。



■プラスチックごみを削減しよう！

世界の海には、年間500万～1300万トンのプラスチックごみが流れ出していると推計され、2050年には海の魚の総重量を上回るという試算があります。プラスチック製品の使用・廃棄に配慮することで海洋汚染の防止や生態系の保全に貢献することができます。令和2年7月からレジ袋の有料化が始まりました。買い物の際はエコバックを忘れずに、少しでも環境に配慮した行動を心がけましょう。

JAようてい職員が考えるSDGs関連事業

JAようていの「海の豊かさを守ろう」

- ・農薬の適正使用
- ・GAP認証チェックリストに準じた水質調査の確認
- ・魚毒性の低い農薬の斡旋
- ・選果場から発生する排水の適正処理

今後取り組むべき「海の豊かさを守ろう」

- ・漁協との連携強化
- ・河川への農薬流亡対策の徹底
- ・清掃活動の強化

参考：「1時間でよくわかるSDGsと協同組合」
「海の豊かさを守ろう（国際開発センター）」

(https://idej.jp/sdgs/img/IDCJ_SDGs_HANDBOOK_GOAL14.pdf)